第

三年

画数 11
筆順 竹 笋 第
オン ダイ
クン

成り立ち

先が二(ふた)またになった〝ほこ〟になめしがわをまきつけた形をあらわし、〝じゅんじょ〟といういみをあらわした〝弟（2年197）〟が〝兄弟のじゅんじょ〟といういみから〝おとうと〟のいみになってしまいましたので、〝じゅんじょ〟のいみをあらわすために、〝等〟と同じように、〝書るい〟のいみの〝竹(たけかんむり)〟をつけたものです。

〝等〟と同じように〝じゅんじょ〟といういみにつかいますが、〝等〟が「一等、二等、三等……」というようにつかうのにたいし、〝第〟は「第一、第二……」というようにつかいます。

〔ダイが呉音であることは、〝弟〟と同じである。したがって、漢音はテイであるが、その用例は今はない。〕

使い方

▽式次第(シキ)の第一は、いうまでもなく「開式(カイ)のことば」で、第二が「校歌のせいしょう」です。

▽入学しけんに及第するか落第するかはべんきょう次第です。

熟語例

▽次第(シダイ)（ものごとをする〝じゅんじょ〟のこと。式次第は〝式のじゅんじょ〟。ものごとはじゅんじょにしたがってきまるので〝きまる〟といういみにもつかいます。べんきょう次第は「べんきょうできまる」といういみです。）

▽第一(ダイイチ)（じゅんじょで一ばんめ、といういみ）

▽及第(キュウダイ)（むかし、じゅんじょにしたがって〝しけん〟が行われましたので、第は〝しけん〟のいみにつかわれます。「しけんにうかること」です。）

▽落第(ラクダイ)（「しけんに落(お)ちること」。及第を〝合格(ゴウカク)〟、落第を〝不(フ)合格〟ともいいます。）

▽第一流(ダイイチリュウ)（その方めんで、一ばんすぐれていること。また、そのような人のこと。かんたんに〝一流〟ともいいます。）

題

三年

画数 18
筆順 日 早 是 題
オン ダイ
クン

成り立ち

〝頭〟の形をあらわし、〝頭〟といういみをあらわした〝頁〟と、「日のうごきのように正しい」といういみで作られた〝是〟とを組み合わせて作った字です。

頭の中でいちばん人の目につく〝ひたい〟をあらわした字です。〝おでこ〟のことをあらわした字です。

しかし、今では「人目につくところに書かれる字」といういみにつかわれ、また「文学や絵画(カイガ)、音楽などのさくひんの主意(シュイ)をあらわすみじかいことば」のいみにつかわれます。例表題、題名、題目、主題、演題(エンダイ)。

〔ダイは呉音である。漢音はテイであるが、その熟語はない。提はこの反対で、漢音だけが用いられ、呉音で読まれる熟語はない。〕

使い方

▽ぼくは作文が大すきです。でも、題をあたえられて書くよりは、自分で書きたいと思っている題で書く方がすきです。

▽きょうの算数の問題はむずかしかった。たしかにできていると思えるのは、十題中六題だけです。

熟語例

▽題(ダイ)（作文の題名。作文の中心となるものを、みじかいことばであらわしたものです。）

▽表題(ヒョウダイ)（題名のこと。表(おもて)に出すので表題といいます。本では表紙に書かれます。〝標題(ヒョウダイ)〟とも書かれます。標は〝目じるし〟といういみの字です。「目じるしになる題名」といういみのことばです。）

▽問題(モンダイ)（答えをもとめるみじかいことば。問(と)いのみじかい文。「やっかいなこと」といういみにもつかわれます。例問題をひきおこす。）

▽題目(ダイモク)（題名や問題のいみにつかわれます。）

▽議題(ギダイ)（会議の題目。会議で議論(ロン)される問題。）

▽課題(カダイ)（課せられた問題。とくようにとあたえられた問題のことです。）